

企業ニュース 島津製作所

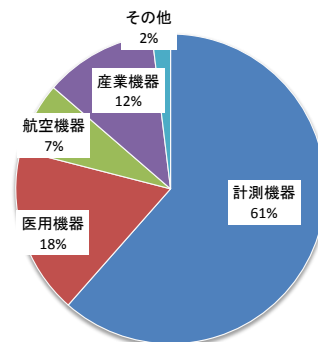
(東証1部：7701) <https://www.shimadzu.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

老舗計測機器メーカー

1875年に教育用理化学器械メーカーとして創業。創業者および二代目（共に著名発明家で、同名の島津源蔵を名乗った）が事業の礎を築いた。日本初の据置用蓄電池（1904年）、医療用のX線装置（1909年）などを開発した老舗計測機器メーカー。1917年に現社名に変更した。現在の主要事業は、ガスクロマトグラフ、液体クロマトグラフ、質量分析計などを製造する計測機器事業。当社製品は様々な分野での研究や技術開発・品質管理などに用いられている。医用機器では医療用X線装置が主力製品。航空機器は防衛省や米国ボーイング社向けにフライトコントロール機器や表示機器などを供給している。産業機器では半導体製造装置向けのターボ分子ポンプ、フォークリフトや建機向けの油圧機器、ガラスワインダー（ガラス繊維紡織機）などを製造している。

◇18.3期売上高構成比



(出所) 島津製作所資料よりCAM作成

計測・産業セグメントの伸長が業績をけん引

19.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は、売上高が857億円、前年同期比13%増、営業利益が57億円、同48%増。若干の為替影響（対ドル円高）は受けたものの、計測、産業両事業がけん引し業績は伸長、第1四半期の過去最高（売上高、営業利益、経常利益、純利益）を更新した。計測機器事業では中国における環境機器が大幅に拡大、産業機器ではターボ分子ポンプの好調継続に加え、ガラスワインダー、真空熱処理炉などの拡大も寄与した。

19.3期の会社計画は、売上高が3,900億円、前期比4%増、営業利益が450億円、同5%増。第1四半期決算での通期計画に対する業績進捗率は売上高で22%（昨年度通期実績に対する同期進捗率20%）、営業利益で13%（同9%）。当社は第4四半期（1-3月）の比重が高く、第1四半期業績の影響度は低いものの、昨年より高水準であった。米ドル為替前提1ドル=105円も据え置かれており、中間期での業績予想上方修正も期待できよう。足元の事業環境では半導体製造装置向けの需要に不透明感は台頭するも、計測機器での堅調な需要の継続で吸収できよう。

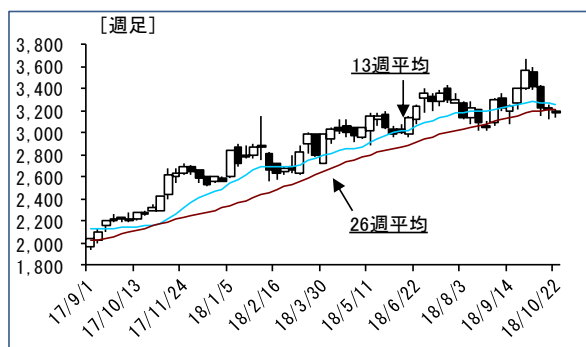
【株価動向・投資判断】

競争力向上による売り上げ伸長とコストダウンなどによる利益率上昇が業績貢献した。両要因は今後の収益改善要因としても期待したい。中期視点の投資対象として注目したい銘柄であろう。

<7701 島津 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	342,479 (0)	37,089 (4)	37,039 (6)	26,473 (11)	89.8	20.00
18.3	376,530 (10)	42,822 (15)	41,871 (13)	29,838 (13)	101.3	24.00
19.3 予	390,000 (4)	45,000 (5)	44,000 (5)	32,000 (7)	108.6	26.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/10/22)	3,195 円
年初来高値(高値日)	3,670 円(18/9/27)
同 安値(安値日)	2,564 円(18/2/6)
予想 P E R (19.3 予)	29.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	909.0 円
P B R	3.51 倍
予想配当利回り	0.81 %
(1株当たり配当金年26.00円)	
R O E (18.3)	11.7 %
発行済み株式数	29,607 万株